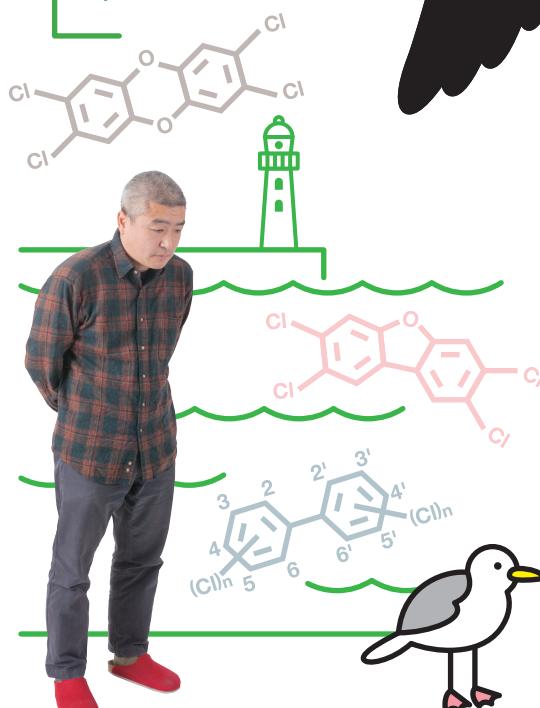


Q

動物の生態を調べると
何がわかるの?



教えてくれます
環境汚染を
野生動物が、



北の海で行う
海鳥の生態調査。

私の研究テーマは野生動物の生理生態学的研究で、主にウミネコやウトウ、オオミズナギドリなどのコロニー（集団営巣地）を形成する海鳥類が専門です。たとえば北海道の北部にある天売島。ここはウトウの世界最大の繁殖地で、40万ペアが生息しており、無数に空いている巣穴を間近で観察することができます。また、青森県八戸にある蕪島には、3万弱くらいのウミネコの巣があります。調査地にもありますが、行く場所の海鳥は人に慣れていますので近距離で調査が可能。ただ、動物相手ですから、エサの状況や天候に左右されるので思い通りに進まないこともあります。ときには、調査している鳥が野猫に殺されたり、食べられてしまうという残念なこともあります。

水銀による海洋汚染は
いまも進んでいる。

原発事故で低濃度の放射線が問題になりましたが、最近では低濃度の水銀汚染による野生動物への影響について調べています。水銀による汚染は水俣病として社会問題となり、その結果、日本では対策が取られ解決したと思っている人も多いでしょう。でも文献を読むと、欧米では水銀を含む化学物質の野生動物への汚染が生物多様性を脅かすとされています。ただちに人間に影響が現れるレベルではないにしても、アジア地域で排出された排ガス中の水銀によって日本沿岸の北太平洋の汚染が進んでいるということはよく言われています。実際に海鳥の蓄積量を調べてみると、数値の意外な高さに驚きますね。こうして調査していますが、実は自分の研究がどう世の中に役立つかにはあまり関心がありません。私自身、知りたいことをただひたすらに追究する研究があつてもいいと思って続けています。

私の学生時代

ペンギンの調査で
2度南極へ。

私が撮影したペンギン。南極地域の一部、クローゼー諸島へ調査に行ったときの写真です。国立極地研究所のプロジェクトに参加し、フランスの研究者とキングペンギンを共同研究しました。本当は北極にあこがれていたこともあり、その後北極でも海鳥の調査をしました。



PROFILE

新妻 靖章 先生

北海道大学の理学部で動物学を専攻されていた新妻先生。「北大の理学部はもともと研究者を養成する教育でしたし、所属していた研究室の大半のメンバーが博士課程へ進んでいたので、研究職に就くことが自然の流れでした。」

